萬葉集略解

二十上

柳田文庫
文庫11
A 104
30

48 10888

文庫11
A 104
30

柳田泉文庫

48 10668

宮城縣立圖書館

萬葉集卷第二十

幸行於山村之時先太上天皇詔陪從王賦和歌之時
天皇御口號一首　王の下卿字と脱　舍人親王應　詔奉和歌一
首○天平勝寶五年八月十二日二三大夫等各提壺酒
登高圓野聊述所心作歌三首○同六年正月四日氏族
人等賀集于少納言大伴家持宅宴飲歌三首○同七日
天皇太上天皇皇太后在東常宮南大殿時播磨國守
安宿王奏歌一首○同三月十九日家持之庄門槻樹下
宴歌二首　置始連長谷歌一首　二首しいつるこころなし　長谷
攀花提壺到來肉是大伴家持和長谷歌一首○同二十
五日左大臣橘卿宴于山田御母之宅時少納言大伴家
持矚時花作時一首○同四月大伴家持詠霍公鳥歌一

首○七夕歌八首○同月二十八日大伴家持作歌一首
○大伴宿禰家持憶秋野聊述拙懷作歌六首
同七歳乙未二月相替遣筑紫諸國防人等歌七首（ここに七首とあるは誤）
（也七ヶ人上進る遠江防人の名數なり、名は越標なれども數なりてはまさにこれ）○同六日防人部領使遠江國
史生坂本朝臣人上進歌（七首三首誤）○同七日相模国防
人部領使守従五位下藤原朝臣宿奈麻呂進歌三首（三と一誤）
○同八日兵部少輔大伴家持退痛防人悲別之心
作歌一首 并短歌○同九日大伴家持作歌三首○同七
日駿河国防人部領使守従五位下布勢朝臣人主進歌
十首○同九日上総国防人部領使少目従七位下茨田
連沙彌麻呂進歌十三首○同十三日兵部少輔大伴家
持陳私拙懷歌一首并短歌○同十四日常陸国防人部

領使大目正七位上息長真人国島進歌十首（ヶ様ヶ様）○同
日下野国防人部領使正六位上田口朝臣大戸進歌十
一首○同十六日下総国防人部領使少目従七位下縣
犬養宿禰浄人進歌十一首○同十七日兵部少輔大伴
家持作歌三首○同十九日兵部少輔大伴家持為防人
情陳思作歌一首 并短歌○同二十二日信濃国防人部
領使上道得病不来進哥三首（二首誤）○同二十三日上野国
防人部領使大目正六位下上毛野駿河進歌四首（七位の下下の
字を脱）○陳防人悲別之情歌一首 并短哥 同二十三日兵
部少輔大伴宿禰家持三首（此同二十三日ここの標ハ非也上の陳防人悲別之情哥ノ属ヘベシ然ルニ同二十三日ニ防人
悲別之情哥一首并短哥四首ト見ヘタリ）○上丁那珂郡檀前舎人石前之妻大伴部
真足女一首（母を捨て女とも）○助丁秩父郡大伴部小歳一首○主帳

荏原郡物部歳徳一首（帳と張の誤）○妻椋椅部刀自賣一首（部と郡の誤）○
豐島郡上丁椋椅部荒虫之妻宇遅部黒女一首（遅の下部と郡の誤）
○荏原郡上丁物部廣足一首○橘樹郡上丁物部真根
一首（一と二の誤）○都筑郡上丁服部於
田一首○妻服部呰女一首○埼玉郡上丁藤原部等母
麻呂一首○妻物部刀自賣一首○二月二十日武蔵国
部領防人使掾正六位上安曇宿禰三国進歌數二十首
但拙劣者不載（上の伝はよろしく上下那珂防佐前々已下妻物部刀自妻とのたまへるは武蔵国々々三国進等十二首と共にきすべし上の廿三日なる事まもて武蔵国々々三国進等十二首と共にきすべし上の廿三日とあれば、ここの廿日は誤なり、二十の下字を脱せりなり）○昔年防人歌八首（此日々記脱せり）○三月三日
検校防人勅使并兵部使人等同集飲宴作歌三首○
昔年相替防人歌一首○先太上天皇御製霍公鳥歌一
首　陸奥守觀應詔奉和歌一首○冬日幸于敦賀御井

之時内命婦石川朝臣應詔雪歌一首○上總国朝集
使大掾大原真人今城向京之時郡司妻女等餞之歌二首
○五月九日兵部少輔大伴宿禰家持之宅集飲歌四首
○同月十一日左大臣橘卿宴右大辨丹比国人真人之
宅歌三首○十八日左大臣宴於兵部卿奈良麻呂宅歌三
首（奈良麻呂の姓を脱、三を一の誤）○八月十三日在内南安殿肆宴歌二首○
十一月二十八日左大臣集於兵部卿橘奈良麻呂朝臣
宅宴歌一首
天平元年班田之時使葛城王從山背国贈陸奥守觀命婦等
所哥一首　陸奥守觀命婦報贈歌一首
天平勝寶八歳丙申二月朔乙酉二十四日戊申太上天皇
太后幸行於河内離宮經信以壬子傳幸於難波宮也（太后）

上皇の字をぬけり、后と右は医、孝謙紀に天皇太上天皇皇太后とあるに、天皇太上天皇とかくべき事後世のかくの如し、次の三月七日〜〜の標と、七夕〜〜の標とを脱せり

○三月七日於河内國伎人鄉馬國人之家宴歌三首 馬の下史の字を脱せり ○二十日大伴宿禰家持依興作歌五首 ○喻族歌一首并短歌 ○大伴宿禰家持臥病悲無常欲修道作歌二首 ○同家持顧專作歌一首 ○冬十一月五日少雪夜兵部少輔大伴宿禰家持作歌一首 ○八日讃岐守安宿王等集於出雲掾安宿奈杼麻呂之家宴歌二首 ○兵部少輔大伴宿禰家持後日追和出雲守山背王作歌一首 ○二十三日集於式部少丞大伴宿禰池主之宅飲宴歌二首 二首を三首あり ○智努女王卒後圓方女王悲傷作歌一首 ○大原櫻井真人行佐保川邊之時作歌一首 ○藤原夫人歌一首 ○作者未詳歌一首 ○三月四日於兵部大丞大原真人今城之

宅宴歌一首 ○播磨介藤原朝臣執弓赴任悲別歌一首

勝寶九歲六月二十三日於大監物三形王之宅宴歌一首 ○大伴宿禰家持歌一首 本文〜〜は大伴宿禰家持悲怜物色變化作哥一首、まゝ家持作哥一首あり、此月脱せり、

天平寶字元年十一月十八日於内裏肆宴二首 哥の字を脱 ○十二月十八日於大監物三形王之宅宴歌三首 ○年月未詳歌一首 藤原宿奈麻呂之妻石川女郎贈愛離別悲恨作哥一首 ○二十三日於治部少輔大原今城真人之宅宴歌一首

二年春正月三日王臣等應詔旨各陳心緒歌二首 〜〜は二首〜〜 ○六日内庭假植樹木以林帷而為肆宴歌一首 以の下作の字を脱帷を惟と誤る ○二月於式部大輔中臣清麻呂朝臣之家宴歌十首 ○依興各思高圓離宮處作歌五首 ○屬目山齋作歌三首 ○二月十日

右中臣大伴宿禰家持頌作哥一首と標目を分ち挙べし

〜〜は二年春〜〜各陳心緒哥一首〜〜、次の七日侍宴と標目を分ち挙べし

於内相宅餞渤海大使小野田守朝臣等宴歌一首 小野朝臣田守

○七月五日於治部少輔大原今城真人宅餞因幡守大伴宿禰家持宴歌一首○三年春正月一日於因幡国廳賜饗國郡司等之宴歌一首

幸行於山村之時歌二首 欽明紀元年二月百濟人已知部投化、置倭国添上郡山村今山村已知部之先也、後名河添上郡山村也未無良

先太上天皇詔陪從王臣曰夫諸王卿等宜賦和歌而奏上即御口號曰 奥津云奇の後の勝宝五年は家持の事て載ら

まくるよりしれバ先太上天皇八元正天皇之聖武天皇をバたゞ太上天皇とのみ載らるといふ和歌とハ先太上天皇の御ふみ和へなれと詔らせ給ふ和歌とあるべし日録の御の上天皇二字あるべし此天皇八別先太上を略きて書るせ

安之比奇能山行之可婆山人乃和禮爾依志米之夜麻都刀曽許禮

あしひきのやまゆきしかばやまびとのわれにえしめしやまづとぞこれ

花紅葉まどをおらせるくゆゑ

るゝハ山づとハおのづから物づとのつとん即、宣ちに山づとて見とのたまふる
ハ即此詩ゐをさしてのたまへるといふ

舎人親王應　詔奉和歌一首

安之比奇能山爾由伎家牟夜麻妣等能情母之良受山人
夜多禮

あしびきのやまにゆきけんやまびとのこゝろもしらずやまびとやたれ

　山人とハ、右句の山人ハ山に行ける人をさしていへるにて、即天皇をさせり、結句の山人
　ハ御製よりのたまへる山人をさしぞとハ、法みの意をもとらへて、さてかく
　のたまへるハ、こゝろハいかなるぞ山人のうへとのたまへる山人ハ誰ぞと之
　るゝといふなりけり

右天平勝寶五年五月在於大納言藤原朝臣之家時依
奏事而請問之間少主鈴山田史土麻呂語少納言大伴

宿禰家持曰、昔聞此言、即誦此歌也　職員令云、大主鈴二人、出納
鈴印傳符飛驛函鈴事とく

八月十二日二三大夫等各提壺酒登高圓野聊述所心
作歌三首　日附ハ天平勝宝五年とみゆ

多可麻刀能乎婆奈布伎故酒秋風爾比毛等伎安氣奈多
太奈良受等母

たかまとのをばなふきこすあきかぜにひもときあけなたゞならずとも

　たゞならずともハ、たゞにあはんよりハ、の意之、枝風ふけばふきあらんよりハ、衣の紐
　とささけて涼をせんといふ之、あけずハあけんとぞ、ひもハ尾花のまとに吹の
　吹越之

右一首左京少進大伴宿禰池主　巻十九ニ右京少進とみゆ

安麻久母爾可里曽奈久流多加麻刀能波疑乃之多婆

波毛美知安倍牟可聞

あまぐもにかよひてなくなるたつのまとのはざのさてびりみちあくんのも

あてんハ不敢のうらへいまぐ仁系ーあざらーー下系もとハもみぢ敢んう

ん

右一首左中弁中臣清麻呂朝臣

乎美奈弊之安伎波疑之努藝左乎之可能都由和氣奈加

牟多加麻刀能野曽

をみなべーあきさぎさぬぎさをしのつゆてけをんたうまとのぐそ

さぬぎハ清ゑく、秋そのさぬぎ才とくるるさきく、芽のちーぬぎ加る

雲をぐいつゑ用ぐさを

右一首少納言大伴宿禰家持

六年正月四日氏族人等賀集于少納言大伴宿禰家持

之宅宴飲歌三首

霜上爾安良禮多婆之里伊夜麻之爾安禮婆麻為許牟年

緒奈我久

さものうーなあられがぐ仁いやまに阿れまるるんぐさーのをおのく

たハ爰ゆゑ之ゑ之ゑとくるとい久、家のとを枳家の俗いいやまるる

ゑもれば春とをもう、あれゑ吾若く、まるるんハ参ゑんゑ、年の俗と

ゑハ爰のをの自のをの俗のめく年くーてくるるこいて

古今未詳　古今を頂くるこ今俗わるるゑ久ゑくー

右一首左兵衛督大伴宿禰千里　宿卒里と室ゑ俗る

年月波安多良安多良爾安比美禮騰安我毛布伎美波安

伎太良奴可毋

ゑーつさハあくらあくらふあひくれど、あげまさハあさたらぬのも

新しき年月とまねて久しくあるべき物なれば絶えらむ事をしうみく此時正月ちれば かくよきうつ元慶年安良多安良多とあり久老ぞ新をあらしとは後の語あらしき新代ぞあらしよ新と詞るハ雖くとふるさとるべしあるべしハ惜むことのそえて新のことはあるされど新をあらしきといふるくこくいられたるべゆ

古今未詳　これと大よ同じ

右一首民部少丞大伴宿禰村上

可須美多都春初手家布能其等見年登於毛倍波多努之等曾毛布

かすみたつるのはめをけのごとみんとぞ思へバ花ぬしとそこし

いつとそ〻なのごとく新年を京くれうんと思ふ心ぞ

右一首左京少進大伴宿禰池主

七日天皇太上天皇皇太后於東常宮南大殿肆宴歌一首

正月十七日天皇太后孝謙皇太上天皇光明皇后之後紀天平勝宝六年正月丁酉朔癸卯天皇御東院宴五位以上王臣于於を在る化る

伊奈美野乃安可良我之波波等伎波安禮賜伎美乎安我毛布

いなみぬのあからがしはとき八あれどさらのをあがもふ

作者播磨国守安宿王奏　古今未詳　先大よ同じ

右一首播磨国守安宿王奏

和名抄河内國安宿安須加倍郡郷名に見えたり後紀天平九年九月無位より従五位下を授勝宝三年播磨守従五位下佐伯宿禰人足の配流宝亀四年姓高階真人と賜ふ

三月十九日家持之庄門槻樹下宴飲歌二首

夜麻夫伎波奈湼都都於保佐牟安里都都母伎美伎麻之

やまぶきはなでつゝおほさむありつゝもきみきまして見つゝかざしたらなむ

次の云の古注をうけて又云置始連のものの山ぶきを折まくおしみの

左園に来るくせて者と上に置始連の山ぶきの花のさかりなるを折まくおしみ

たよれて花ぶきはなでつゝとあるこゝの歌まことに

右一首置始連長谷

和我勢故我夜度乃也麻夫伎佐吉豆安良婆也麻受可欲

波年伊夜登之能波爾

わがせこがやどのやまぶきさきてあらばやまずかよはんいやとしのはに

余せこハ置始連をさす

右一首長谷攀花提壺到来因是大伴宿禰家持作此歌

和也

同月二十五日左大臣橘卿宴于山田御母之宅歌一首

後紀勝宝元年七月甲午受禅し正六位上山田史日女島を従五位下を授天皇の御乳母也とゝゆ

夜麻夫伎乃花能左香利爾可久乃其等伎美乎見麻久波

知登世爾母我母

やまぶきのはなのさかりにかくのごときをみまくはちとせにもがも

こまぐ〳〵ぞんハをゆるゝ、ゑハ法ゐてをさせるゝ山田法毋をさせるこの
さたのなるべし

右一首廿納言大伴宿禰家持贈時花作但未出之間大
臣罷宴而不攀誦耳　契中ゝ攀ハ舉の誤るべしいて、而の下還の
字もれしこの

詠霍公鳥歌一首

許乃久禮能之氣伎乎乃倍乎保等登藝須奈伎伎由奈
里伊麻之久良之母
このくれのしげきをのへをほとゝぎすなきてこゆなり いましくらしも

右一首四月大伴宿禰家持作

七夕歌八首

波都秋風須受之伎由布弊等香武等曽比毛波牟須妣之
伊母爾安波牟多米
たつあさかぜすゝしきゆふべとうんとそひもはむすびしいもにあはんため

豪牛ゝ多ゝ

秋等伊弊婆許已呂曽伊多伎宇多良家爾花爾奈蘇倍豆
見麻久保里香聞
あさゝとへばこゝろそいたきうたらけにはなにそへつゝみまくほりかも

うてける藤異ゝ毛ゝけのゝ多ゝ　なぞへてハなぞらへてゝ句を一四五
三二ゝ　ゝ　ゝ

波都乎婆奈波名爾見牟登之安麻乃河波弊奈里爾家良
之年緒奈我久
はつをばなはなにみむとしあまのかはへなりにからしとしのをながく

初句ハもちふくいくん為のこと、もちまへハ集中よくてあさくちまるをふあり
足ハ去らしむて、花のゆくふとりふを略りる也、花のさくや、ハめづらしくこそ
相ともふへハちりハ備りし

秋風爾奈妣久可波備能爾故具左能爾古餘可爾之母於毛保由流香母

あきかぜになびくかはびのにこぐさのにこよかにしもおもほゆるかも
上ハにこよかといはん為の序のこと、二星の心を思ひやりてよめり、にこ草ハ
十一十四十六にもよめり、詳なりで、かハ傍ハ川方之

安吉佐禮婆奇里多知和多流安麻能河波伊之奈彌於可婆都藝弖見牟可母

あきされはきりたちわたるあまのかはいしなみおかばつぎてみむかも
山川なとに石を並へおきて渡るといへり おのバつぎてこんこのも

秋風爾伊麻香伊麻可等比母等伎弖宇良麻知乎流爾月可多夫伎奴

あきかぜにいまかいまかとひもときてうらまちをるにつきかたぶきぬ
うらハ心をいふ下結とりて同し

秋草爾於久之良都由能安可受能未安比見流毛乃乎月乎之麻多牟

あきくさにおくしらつゆのあかずのみあひみるものをつきをしまたむ
花の露をとるまあるぬるくいふ、此月ハ月次の月まて、七月をのこまちん
まちんらもこ嘆く〳〵

安乎奈美爾蘇弖佐閉奴禮弖許具布禰乃可之布流保刀爾左欲布氣奈武可

あをなみにそでさへぬれてこぐふねのかしふるほどにさよふけなむか

来八重咲の桜花を、兄弟のもとをいとかしこ八重七重にそ
かしこたてまつり、彩をつくるさかづきを、本をもうえ
ふるさとにふるまいて
右大伴宿禰家持獨仰天漢作之
八千種爾久佐奇乎字恵豆等伎其等爾左加牟波奈乎之
見都追思努波奈
やちくさにくさきをうえてとき
ごとにさのんきをみてしたぶな
あきをこそ思へ
右一首同月二十八日大伴宿禰家持作之
宮人乃蘇泥都氣其呂毋安伎波疑爾仁保比與呂之伎多
加麻刀能美夜
みやびとのそでつけごろもあきぎりにほひよろしきたかまとのみや

来十六佐婦の袂著衣といふ、官服は皆濫袖を著れば宮人の神ゴケれ
こといふ
多可麻刀能宮乃須蘇未乃努都可佐爾伊麻左家流良武
乎美奈弊之波毋
たかまとのみやのすそみのぬづかさにいまさけるらむをみなへしはも
もそそこのみは倫ゝもひとく、もそそ方と浦方と浦葉とりまぜのぬづ、
ぬづかさは野のうるさ所をいふ岸の司なをいふ塚とりまきたる
をそう紙ばいふ、ももといつるを表るをそう
秋野爾波伊麻已曾由可氐毋能乃布能字等古乎美奈能
波奈爾保比見爾
あきのふにはいまこそゆかめもの
神木ねをもとこそはをこそ

みて、花のにほひとゆゑ、其中にも殊にすぐれて、萩ハものゝふハをとこといへらん
料へ、萩を男花、をみなへしを女花といへるハ、しるしといはれつれど、おそらくハ強ごと
なるらん。様子ハこの様をも花といふハ、鹿獣の尾ふれ、されバいふなるべし、
されバよく尾の字を用ゐ、さて此合のをとこをみるのくいつるハ、草の名
ふハあらずして、男女うち交りて、紛をとひ、秋野にまぐさの花のみをひかる、
男女相ともなひて、いざ見にゆかんといふなるべし。一五三四二と句をつゞけて
みるべし。又ものゝふといふハ、そのものゝふの八十件の緒といふ、男女多かる事なれ、
巻十九にも此紀乃八十をとめらがくみまがふよめれば、ものゝふハをとこといへる料へ
といへれつゞけよめるなり

安伎能野爾都由於弊流波疑乎多乎良受弖安多良佐可里乎須具之弖牟登香

あきのゝつゆおへるはぎをたをらずて、あたらさかりをすぐしてんとか

惜しき盛をすぐさんとよめり

多可麻刀能秋野乃宇倍能安佐疑里爾都麻欲夫乎之可伊泥多都良武可

たかまとのあきのゝうへのあさぎりに、つまよぶをしかのいでたつらん。この

麻須良男乃欲妣多天思加婆左乎之加能牟奈和氣由可牟安伎野波疑波良

ますらをのよびたてしかバ、さをしかのむなわけゆかん、あきのはぎはら
よびたてしとハ、鹿笛とふものをもちて、鹿をよびよするなり、さん、
妻ハさをしかのむなわけにふみて杖をさの枝をとるもの、いめるときハ
こゝハ鹿の胸まで萩をつきふるなり

右歌六首兵部少輔大伴宿禰家持獨憶二秋野一聊述二拙懷一作之

天平勝寶七歳乙未二月相替遣筑紫諸國防人等歌

後記此年七年と七歳と誤つきより記あるべし

可之古伎夜美許等加我布理阿須由利也加曳我伊年多

禰乎伊年奈之爾志豆

かゝこきやみてとかぶり あもゆりわかれこのいもこねをいむなふて

かゞふりは雪りゝ雪立布かこぎぬひきかゞふりとよめり かゝは地名なるいむ

たねは苦とよむ苦しいばかりとふ而の姉と妹の苦痩しなるやうなる

妹なふして遠つ国まあらんと歎くなるべしと爲かいそれさ爽快いむ

たねは妹なねちらん加曳の墨なる妹なねはあれどいよいよとなるべしとなり、

妻神の枝のうち絡なるたれかいつかは考べし

右一首國造丁長下郡物部秋持 この国造丁を防ふ人とする

注帳下國造と帳より出せる人なれば防人のよる時の道中の人なるべし、すな

わちといふは足の蹠(ふまうら)まよりわる名なるべく仕れて見しとそもあるべくなり記、

和名抄遠江國長上長乃加美

和我都麻波伊多久古比良之乃年美豆爾加其佐倍美曳

豆余爾和須良禮受

わがつまはいたくこひらしのなをつるかごさへみえくよりにはもられず

くひらしは苦らしとかこは新之、面影のやうなりてえゆるといふ、ようにの沼

はよりてふなり

右一首主帳丁厩玉郡若倭部身麻呂 性をと帳と張と誤、和名

抄遠江國厩玉阿良多末、今称有玉

等伎騰吉乃波奈波佐家登母奈爾須禮曽波波登布波奈

乃佐吉低已受祁年

ときゝのさきはさけども なほもなれでそとふさきのときてことだのん

なにあれぞハ何為ぞ、人ちゝといふ花とハよき花のうつろふをいへるを誤て花とハ
いへるにて、そハ只母ハなど見えこざるらんといふ、嘆てこざるらんハ咲来に
ざらんのこゝろ、此らんの猶ハよろんありらんなどいふらんなく、よろんハようらん、
ありらんハあらうらんの、考證紀事に、ちゝごらんにあるハさけどもおやとても
うつくしいものまござるまでこぬといふよわるの、低え唐ある泥紀、
さまでのでを隠く、咲出のこゝろもちあるべし

右一首防人山名郡丈部(はせつかべ)真麻呂　和名抄遠江國山名(也末奈)

等倍多保美志留波乃伊宗等爾閉乃宇良等安比弖之阿
良婆己等母加由波牟

とへたふとゝるハのぼそにふへのうらとあひてしあらバことゝてかゆかん
とへたふとハ遠江之、和名抄遠江(止保太阿不三)とあり、とかつあふみといふこと、
古くよりかくもいへるか、ちゝるはいま遠江蓁原郡白羽村といふ、ちゝろさ

と唱へく海ちなるよし、白羽牧ハ主税式にも見ゆ、ふへのうらハ和名抄遠江
濱名郡に贄代といふ見ゆ、是なるべし、ふへしろハちゝるはといふをあれて、京の方
へをさしちゝるべし、あれぞらハ言ハ毎もんといふて

右一首同郡丈部川相　かはひとよむべし

知知波波母波波奈爾母我毛夜久佐麻久良多妣波由久等
母佐佐己弖由加牟

ちゝはゝもはなにもがもやくさまくらたびはゆくともさゝごてゆかむ
父母が本草の花にあらバ抜りとも持く行べきをとえ、さしあぐるのちゝの
の徳さあれバさゝぐるといふを、訛りくさゝでといへり

右一首佐野郡丈部黒當　和名抄遠江佐野ハ今本訓注を脱せり、
たやとよむべし、倭紀佐益(りや)郡とあり、此名にてよむべきこの

父母我等能々志利弊乃母々余具佐母々與伊弖麻勢和

我伎多流麻呂

ちくがらのくもりのそよぐさかよいてませわがさくるやまで

このくもりは女母の住所の後ゝ、かよはせとられば、六位の者のせ
ふかもくさはもよりいそゝ拝まくいでませ八百束もいませゝわが
さくるまでは、者物なるまでゝ、六位は八くるまぐとあり

右一首同郡生玉部足國

和我都麻毋畫爾可伎等良無伊豆麻毋加多比由久阿禮
波美都都志努波牟

わがつまも畫かきとらんいづまもがたびゆくあれはみて土ぬぎん

いづまもがは賜もがもゝ防礼の下波ゝ廣本可多伎、之のことるれば濁るべし

右一首長下郡物部古麻呂　古ゝ廣本等とせり

二月六日防人部領使遠江国史生坂本朝臣人上進歌

数十八首但有拙劣歌十一首不取載之　たゞ八そのうち七
そを載せり

於保吉美能美許等可之古美伊蘇爾布理宇乃波良和多
流知知波波乎於伎弖
おほきみのみことかしこみいそふりうのばらわたるちゝはをおきて

いそふりは石を踏て、うのばらは海原、はるゝは約さるものかゝこさとを
右一首助丁文部造人麻呂　助名を脱せりかるべし

夜蘇久爾波那爾波爾都度比布奈可射里安我世武比呂
乎美毛比等毋我毋
やそくにはなにはにつどひふなかざりあがせむひろをみもひとごも

八十くにはなくの国ゝ防人は遠江より来の国ゝより出ゝ数多ゝれば、ふの
ふなかざりは船波ゝ集りて毋よりもひとるゝひろは日なれば、ろは等

と同じく助辞之、こゝもハらんに同じ、立ちて舟かざりといふをもてみれバ舟を
かざりて帰りくるよそひを人にみせまほしといふなるべしといへり

右一首足下郡上丁丹比部國人　和名抄相模国足上足辛乃加美

足下 准上、和名抄の本足柄上下とあるハ誤也、例にたがへり

奈爾波都爾余曾比余曾比弖氣布能日夜伊田弖麻可良
武美流波波奈之爾

なにハづによそひよそひてけふのひやいでゝまからんこゝろはかなしに

よそひハ舟よそひ也、如くまかるんハ旅立と出立をいふ

右一首鎌倉郡上丁丸子連多麻呂　和名抄相模国鎌倉加末久良、

二月七日相模國防人部領使守從五位下藤原朝臣宿
奈麻呂進歌數八首但拙劣歌五首者不取載之　八その内
右三首載らる、宿奈麻呂ハ續紀天平十八年正六位下より從五位下を授と

みえたるを友住とかく宝亀元年式部卿とみゆ

追痛防人悲別之心作歌一首并短歌

天皇乃　等保能朝廷等之良奴日筑紫國波安多麻毛流
れほさみのとほのみかどとしらぬひつくしのくにハあたまもる
於佐倍乃城曾等聞食四方國爾波比等佐波爾美知弖波
おさへのきぞときこしをすよものくにゝハひとさはにみちてハ
安禮杼毛登利我奈久安豆麻乎能故波伊田牟可比加弊里
あれどもとりがなくあづまをのこハいでむかひかへり
見世受弖伊佐美多流多家吉軍卒等禰疑多麻比麻氣乃
みせずていさみたるたけきいくさとねぎたまひまけの
麻爾麻爾多良知禰乃波波我目可禮弖若草能都麻乎母
まにまにたらちねのはゝがめかれてわかくさのつまをも

麻可受安良多麻能月日餘美都都安之我知流難波能美
まのあてあらたまのつきひよみつゝあしがちるなにはのみ
津爾大舩爾末加伊之自奴佐安佐奈藝爾可故等登能倍
つにおほぶねにまかいしじぬきあさなぎにかこととのへ
由布思保爾可知比佐手里安騰母比弖許藝由久佐美波
ゆふしほにかぢひきをりあともひてこぎゆくきみは
奈美乃間乎伊由佐佐具久美麻佐吉久毋波夜久伊多里
なみのまをいゆきさぐゝみまさきくもはやくいたり
弖大王乃美許等能麻爾末麻須良男乃許己呂乎毋知弖
ておほきみのみことのまにまにますらをのこゝろをもちて
安里米具里事之乎波良婆都都麻波受可敝理佐麻勢登
ありめぐりことしをはらばつゝまはずかへりきませと

伊波比倍乎等許敝爾須惠弖之路多倍能蘇田遠利加敝
いはひべをとこべにすゑてしろたへのそでをりかへ
之奴婆多麻乃久路加美之伎弖奈我伎氣遠麻知可毋戀
しぬばたまのくろかみしきてながきけをまちかもこひ
牟波之伎都麻良波
むはしきつまらは

天皇の遠のみかどゝハ巻三にも見えたり、あまざかるハ異国の賊と
守る也、巻六にもあまざかるつくしとよめり、おほきみのとほのみかどハ賊を押へ防ぐ城
とりふゑ、関しをそてハこゝろしめすといふに同じことにて、下の四方の国へつゞく、
あづまをのこハ東のをのこ安至麻乎等古とあり、これハ同じこゝろ、續紀景
雲三年十月の詔に、東人波常尓云久額尓方箭波立止毛背波箭方不立止
云天君乎一心乎以天護物曽云々、巻十八かつ見ハせどところぞて、卅下にも

なほおもやかてる見ちなくてたゞしよめり、いくさハ射合(イクハ)する前(サキ)にいづるをて、
矢射る人をもいふ、こゝのハ兵器(ツハモノ)ちるきど、その是とる人をいへるものと
いふべし、ねぎらまひハ労(ネギラ)ひ好ひ之、是を云かこちぞて孫宜ニ為、母が
めわれてハ、母に離れて見ゆるもののなきこゝ之、妻をもまつるでハ不縿之、月
日よみつゝハ数へつゝ之、あしのちる枕詞、まるいハ、まろぢをでぬるとをいひてかい
かぢのかぢちかし、かこハ水手之、かぢ引をり、是ニ行舟のかぢ引をりて
といへり、打たちぬるをいふ、あともひハ誘之、衣ハ防人とさをていゆるさ
さぐくこハ数語、さぐくみハ程詞岩根木の根ふきさくみていふべし、みを
とのまにまハ、まにと同じ、あらみぐりハ荒みて行巳むこ、良の下婆ら
布波子能之麿布ち備く改、つまハ云ハ是ちくと同じ、いそひハ蘭磁之、
ごとゝべまちをてハ是十七まも猶行ちがさきくあれといをひべらをてつあ
ぶ庭のべみてしよ見り、猶ちる辺の庭と斎ふハたるしへの事之、以をてをてく

ふより猶きもえんどよ自ら帰てかゝる之

反歌

麻須良男能由伎等里於比弖伊田弖伊氣婆和可禮乎乎之美奈氣伎家牟都麻

ますらをのゆぎとりおひていでていけばわかれをおしみなげきけんつまの

等里我奈久安豆麻乎等故能都麻和可禮可奈之久安里家牟等之能乎奈我美

とりがなくあづまをとこのつまわかれかなしくありけんとしのをながみこ

おてハ帰りまん年のへしかれバ妻と子が悲しうおもんと之

右二月八日兵部少輔大伴宿禰家持

海原乎等保久和多里弖等之布等母兒良我牟須敝流比毛等久奈由米

うなぐらをしろくわるかてとりまる。こちらがむちぐる。ひてとくるゆゑん
ひとうらゆゑんふ神のひとをふるゆゑん
今替爾比佐伎毋利我布奈貝須流宇奈波良乃宇倍爾奈
美那佐伎曽禰
いまかるにひとをとりものゆゑでたるうなぐらのうつまをみちさきそね
をとこをよみく、神代紀秀起浪穂を上といふ先くに伝をうなれとをん
佐吉毋利能保里江已藝豆流伊豆手夫禰可治等流間奈
久憑波思氣家牟
さきとりのほりえこぎづるいづてぶねかぢとるまをくこれをたのむ
ふりいの船出窓江へ伊豆手船いぶてふ船出ゆゑ、堀江をいづる船
をくこりのうちを出る船をひめいまをくこんといひりこそ

右九日大伴宿禰家持作之
美豆等利乃多知能已蘇伎爾豆久毋爾毛能波須須價爾豆已
麻叙久夜志伎
みつとりのたちのいそぎにつくもの毛はすすかにつくしまぞくやしき
水鳥のふそうの毛をもつくもの毛はすすかにつけうつくしまぞくやしき
はすすかにつけうつくしまぞくやしき
みくはりひねつる
右一首上丁有度郡牛麻呂　郡の郡の名にて氏なるべし
多多美氣栄牟良自加已蘇乃波奈利蘇乃波波辛波奈例
豆由久我加奈之佐
たゝみけあむらじかいそのはなりそのはゝからはなれゆくかなしさ
たゝみけあむらじかいそのはなりそのはゝからはなれゆくかなしさ
たゝみけあむらじ磯、むらじが磯、筑紫の磯にあるれば筑紫にあるべし、さきそへ

さし放れる旅なれバよハなるれてといへる意也

右一首助丁生部道麻呂

久爾米具留阿等利加麻氣利由伎米具利可比利久麻豆爾已波比弖麻多禰

くにめぐるあとりかまけりゆきめぐりかひりくまでにいはひてまたね

翁の說ふくにめぐるハたしく歌駿をさしくたといへバ防人の行く將にもくるを国巡るといへり、あとりがまけりハ吾一人が行りくれバ軍団の内にて猶獲猶佳とりよるんといへれど、仙覺ハあとりハ吾一人といへるを誤也、こハ東の防人なれバ吾ひとりといふまじき也、あとりハ臈子鳥にて、こゝなるの折むれて行ぞよくさわぎてまうくるといへる也といへり、宣長云、契沖が說によるべし、国めぐるハ臈子鳥のむれ飛ハ數多く群して国をめぐり行もの、かまけりハ大雲ちかまびをしきくかしらかり

やりまし゛ちとぞ皆かれなしと云、さてあとりのやうるハをかまびすしきものゆゑ初二句ハ行旅の序にて、国をめぐるあとりのかまびすしくやうりかくるゆくめぐりくといひつゞけたるなるべし、天武紀七年十二月臈子鳥弊天自西南飛東北と見え、和名抄ニ、獦子鳥辨色立成云臈觜鳥阿止里一云胡雀、揚子漢語抄云、獦子鳥和名上同今按両說所出未詳、但本朝国史用獦子鳥、又或說云此鳥群飛如列卒之満山林、故名獦子鳥也とあるにて、此行の或從防人がむれ立て行つゞくなん、かひりくまでにハ歸來まで也、いはひてまてハ家人の齋て待てよといふ也

右一首刑部虫麻呂

知知波波江已波比弖麻多禰豆久志奈流美豆久白玉等里弖久麻弖爾

ちゝはゝえいはひてまたねつくしなるみづくしらたまとりてくまでに

江ハよといへるが如し、下ふよもるとにもるといへり、みづくハ水子潰くにて

八はゆかバみづく屍、とりてくまでにハ取てゆきまゐるよしをいへり、つくらう
つとにせん珠を取てゆきまゐらんと待らるゝとなり

右一首川原虫麻呂

多知波奈能美衣利乃佐刀爾父乎於伎弖道乃長道波由伎加弖努加毛

たちばなのみえりのさとにちゝをおきてみちのながちハゆきかてぬかも

初句ハ枕詞の考にいへり、宣長云、和名抄に駿河国志太郡に夜梨あり、夜ハ衣の
誤なるべし、この衣ハ夜の誤にしもいへり、衣と唐本表に作る、紛れてぬるにや待へ

右一首丈部足麻呂

麻氣波之良寶米弖豆久禮留等乃能其等己麻勢波波刀自於米加波利勢受

まけばしらほめてつくれるとのゝごといませはゝとじおめかはりせで

景行紀御本木此云まきといへり、古人本を以ていへバ真木柱の、ほめてハ顕宗紀
の室寿詞などを見すて新室にほかひまうしてそれをほむるよし
いへり、おめハ面也、かくて作れる殿の如く変らずなくて母とじの面変りせ
ずしておはしませといへるなり

右一首坂田部首麻呂

和呂多比波多比等於米保等己比爾志弖古米知夜須良牟和加美可奈志母

わろたびハたびとおめほどこひにしてこめちやすらむわがみのかなしも

此うたハはやくしるしおきつるごとくいへバ和呂たびて吾旅者、おめほどハ思ほどに
おもちハ古ハかへ保の約、知ハ毛呂を約転せるにて、顔面ちらんやすらんの誤なり
らん人おもそのおハ連音なり、男なる人、又ハおもおもといへる物語などゆかれハ新なる
かやんハ旅をおもへバ、なげ旅のいとをかしきて、古てを去るるのあれバ二しくに

[illegible]

右一首玉作部廣目　廣と元暦分度と作る

和須良年祇努由伎夜麻由伎和例久禮等和我知知波波

波和須例勢努加毛

わたらむと[illegible]ゆきやまゆきわれとわがちゝはゝわたれせぬのも

こゝろんとそ[illegible]

右一首高長首麻呂

和伎米故等不多利和我見之字知江須流須流河乃禰良

波苦不志久米阿流可

わざめこと[illegible]わのみしうちえするこのねらハくよしくめあるこの

つざめこハ名妹なくらしそもるなれハ、ねハ牧らハ油[illegible]くもくくこの

[illegible]毛の[illegible]又ハ[illegible]

右一首春日部麻呂

知知波波我可之良加伎奈豆佐久安禮天伊比之古度婆

曽和須禮加禰津流

ちゝはゝがかしらかきなでさくあれていひしことばそとれのねつる

さくあれてハ幸くあれ〳〵いまも

右一首丈部稲麻呂

二月七日駿河国防人部領使守従五位下布勢朝臣人

主實進九日歌数二十首但拙劣歌者不取載之　後紀勝

宝六年四月太宰府言、入唐第四船判官正六位上布勢朝臣人主来泊薩摩国

石籬浦、同年六月授従五位下、同月為駿河守、[illegible]

のもとより右十首とゝ[illegible]載[illegible]

伊閉爾之呂古非都都安良良受波奈我波氣流多知爾奈里

日下シ早二誤下ロ

豆毋伊波非豆之加毋

いへふてこひてあらぢでいまのはるるたちまちわてもいさしてこのも

家うて立てあんようハ海の佩るたりよ生し毋を爾乃あをと波人

の祝のよろこぶる之

右一首国造丁日下部使主三中之父歌　日下ヒ本早ヨ信れ

ヒ、元慶年ヨ信く説、父ハあのまろうう信れるさん、ちのをうて知ご、父の字

文ハ誤ものとわぢ、元慶年ヨ毋とあり、新家伝使主此云於保とあり

多良知禰乃波波宇和加例豆麻許等和例多非乃加里保

爾夜須久禰年加毋

なうもねのちくをとのれてまことうれたびのかうほやをくねんのも

毋を別て多毋ヨあてんうかハ誤歟之

右一首国造丁日下部使主三中　日下ヒ早ヨ信、元慶年ヨ信く説

毛毋久麻能美知波紀爾志乎麻多佐良爾夜蘇志麻須義

豆和加例加由可年

ちくまのみちハきおーをまことさてやうーまをこざてわのれうゆのん

くまハ隈之上ハ陸路といひ、ホハ海路をいう

右一首助丁刑部直三野

爾波奈加能阿須波乃可美爾古志波佐之阿例波伊波波

年加倍理久麻伎爾

にをちなのあをハのかうをてこうばさーあれいをちんかつわくまぐに

古事記ヨ大年神のるヨ庭津日神次阿須波神をこをて竈神之祈

年祭祝詞ヨ座摩乃御巫乃祓辞竟奉皇神等能前ホ白久、生井栄

井津長井阿須波婆比支登御名者白氏

小楽ちて神雛とかうてのヨ造ちるぐーそれをこーばさーという、

あれそハ吾若之、住久麻年ハ泥ヨ住

右一首帳丁若麻績部諸人　帳丁ハ主帳丁ニ、若麻績ハ氏の姓人の下ゝなの服ゝる〻

父母ら妻のよかるらくとうゝ法人の下ゝなの服ゝる〻

多比已呂毋夜豆伎可佐禰豆伊努禮等毋奈保波太佐牟

志伊毋爾志阿良禰婆

たびごろもやつさかさねていぬれども　あらねばこそ　いもにしあらねば

やつさかさねていぬれども　あらねばこそ　いもにしあらねば

伎一本信之化

右一首望陀郡上丁玉作部國忍　和名抄上総望陀郡太

ど、光十四ゝ字麻呂多〻〻

美知乃倍乃宇萬良能宇禮爾波保麻米乃可良麻流伎美

乎波可禮加由加牟

みちのべのうまらのうれにはほまめのからまるきみをばかれかゆん

万解廿上　廿四

うまらハ蒺藜ニ、うれハ末ニ、まめハ豆ニ、ほまめハ豆ニ、ほまめハ豆也ト、和名抄

蒺藜豆阿知万女　蘿上豆也ト、ほまめハ俗ニ、波ゝれハ蘿ニ、神代紀

廃渠槽此云秘波騖都ト、たまつくりを云ふ

右一首天羽郡上丁丈部鳥　和名抄上総国天羽阿末波

伊倍加是波比爾比爾布氣等和伎毋古賀伊倍其登毋遅

豆久流比等毋奈之

いへうぜハひにひにふけとわぎもこがいへづくるひとなし

家風ハ家の方より吹風ト、家風ハ家の妹ゝ云ニ、家風ハ

日ゝ吹ゝ妻ゝ妹ゝ伎ハ妻ゝ云ふ

右一首朝夷郡上丁丸子連大歳　和名抄安房国朝夷阿左比奈

多知詩毛乃多知乃佐和伎爾阿比美豆之伊毋加已已呂

波和須禮世奴可毋

たちごものたちのさわぎに、あひみていでおこるろハをもれせぬのも
たちごもハ起息に村名の立のさまざまみあるのたのいそぐもぐらあり

右一首長狭郡上丁文部與呂麻呂　和名抄安房国長狭郡

余曾爾能美美豆夜和多良毛奈爾波我多久毛為爾美由

流志麻奈良奈久爾

よろしのこみてやるるるもおにがくるふゆるたまあらちくに
わるるもハあを波らんに多くるいや遠ざうり行を張波ら可ゆ
為のたるけきふうけくなるるく

右一首武蔵郡上丁大部山代　和名抄上総国武射

和我波波能蘇豆毋知奈豆氐和我可良爾奈伎之許已呂

乎和須良延努可毛

わがはゝのそでもちぶでゝわがるらにおきゝてるをわすらえぬし

よにたらちねの母かきもでゝとよるあく母の神とゝるを投てもさ
しくゝの兵ハよりゝなく、延をて廷ヨ語る、元唐本よりゝく改

右一首山邊郡上丁物部手刀良　手一本ヨ乎ヨ化　和名抄上総

・国山邊也ホ乃倍

阿之可伎能久麻刀爾多知豆和藝毛古我蘇豆毛志保々

爾奈伎志曾毋波由

あしかきのくまどにたちてわざもこのそでゝ乾ほなさゝそもいゆ

芦垣の隈度ヨ少て、古事記ヨ久美度とあるとハ異るなるべし、当

ハ乾ほとぼを思ふるる云ゝ、拘のたてるハ手のうちるく今とハ別ゝ、

まぐふるれ、考四十一の考のお記ゝくゝ、そハゆハ知らるゝ

右一首市原郡上丁刑部直千國　和名抄上総国市原郡伊知波良

於保伎美乃美許等加志古美伊豆久禮婆和努等里都伎

豆伊比之古奈波毛

おほきみのことかしこみいでくれば
妻ヤ子どもはわぬるこころもとも
つきてはやとりはたてしいそいひ
てるはる草はゆく妹をとどめ
右一首種洲郡上丁物部龍　洲ハ淮の誤なるべし、和名抄上総国周淮郡

都久之閉爾敝年加流布禰乃伊都之加毛都加敝麻都里
豆久爾爾閉年可毛
つくべにへむるふねのいつしかもつくへまつりて
へむるハ舟の舳の古へ此下のもちあるよ、あきなさて倍年気許我年等
とよめり、末ハ思ふに従なまりくいつのかてつ舳ねんと

右一首長柄郡上丁若麻續部年　和名抄上総国長柄奈加良

二月九日上総國防人部領使少目従七位下茨田連沙
彌麻呂進歌數十九首但拙劣歌者不取載之　十九首の内
右十三首萬葉、文武紀二年八月茨田足島賜姓連、和名抄河内国茨田
万年
多

陳私拙懷一首并短歌　懷の下歌字を脱ス

天皇乃等保伎美與爾毛於之豆流難波乃久爾爾阿采能
おほきみのとほきみよにも於てるなにはのくにに　あ采の
之多之良志賣之伎等伊麻能乎爾多要受伊比都都可氣
志たしらしめしきといまのよにたえずいひつゝのけ
麻久母安夜爾可之古志可武奈我良和其大王乃宇知奈
まくもあやにかしこかむなぎらわごおほきみのうちな

朱ヲ元平二作

妣久春初波夜知久佐爾波奈佐伎爾保比夜麻美禮婆見
ひくはるのちぢめハやちくさにさきにほひやまをれバみ
能等毋之久可波美禮婆見乃佐夜氣久毋能其等爾佐可
のともしくかをみれバみのそやけくものごとにさう
由流等伎登賣之多麻比安伎良采多麻比之伎麻世流難
ゆるときとめしたまひあきらめたまひさきませるなに
波宮者伎已之采須四方乃久爾欲里多豆麻都流美都奇
はのみやハきこしめすよもの くによりたてまつる みつき
能船者保理江欲里美乎妣伎之都都安佐奈藝爾可治比
のふねハほりえより みをびきつつあさなぎにかぢひ
伎能保里由布之保爾佐乎佐之久太理安治乎良能佐和
きのぼりゆふしほにさをさしくだり あぢむらのさわ

伎ニ保比豆波麻爾伊泥豆海原見禮婆之良奈美乃夜敝
ぎてほひてはまふいでうなばらをれバしらなみのやへ
乎流我宇倍爾安麻乎夫禰波良禮良爾宇伎豆於保美氣爾
をるがうへにあまをぶねはらいにうきておほみけに
都加倍麻都流等乎知許知爾伊麻里都利家理曽伎太久
つかへまつるとをちこちにいざりつりけりそきだく
毛於藝呂奈伎可毛已伎婆久毋由多氣伎可毋許已見禮
もおぎろなきかもこきばくもゆたけきかもこれ
婆宇倍之神代由波自采家良思毋
ばうべしかみよゆはじめけらしも

大皇の遠き御世ハ仁徳天皇をさす、伊麻能の下の乎ハ与の誤ちなる
ぐいまのよろくをぐ、をのをハ、ひくるの略らしきこゝろのさわくハ、

久るゞ法さゝ、めたまひ吹うめさまし八、文武ゝ天皇ゝ二年よ
ふるゝ代まるはの花いやめづらしもかくことそ奏くあ佐ら阿あさうう
ごとゝあるもあり、さて采須の采を元暦年中、宵、みを引て八水脈を
舟引のぼるゝ、かぢ引のぐり八楫を引たるあく船をやらたるゝ、あぢむら
のゝ八、あぢ村のめくゝいを累くゝ、やゝとるゞゝふ、考七八重折之枝母
とあり、もてゝみうきて、考ばらくゝいるゆ同じ、神代紀蹉散此云
倶穢(クエバラ)鼓邏(カス)、簡須と者元ゝ、おやゝけふゝ、考一遊副川の神も大
御食ゝ仕へまつると上つもたうの八をそゝゝまゝ、いぞうつうう八、
いぞう八細引のすふいゝ、つう八約ちるゝ、そゝきゞくも八そこなく小同じ、
於義ゝ八頤の字を洲り字書ゝ深也ゝ注せれ八おぞろるゝさ八奥をさゝ始注
文ゝ、ゆうまゝいふ歌の詞ゝく、きろの約こちれ八おくるゝさゝいふゝと、采
べゝ、こゝぞもふゝ同じくし、やゞて上のそゝさゞくも同じゝとちると、詞

をうくゝそねゝて古のゝ考ゝ、神代ゆ八上代ゝのをみくゝ信を多の姿
考ゝまゝしゝといつ

櫻花伊麻佐可里奈里難波乃海於之旦流宮爾伎許之賣
須奈倍

さくらゞ花いまさかりなふ八のうみおしてるみやゝにきこめすゑゝ
櫻花も難波宮ゝしなうゝ繁るゝ花ゝいつゝ知てるゝ宮ゝ
いるゝ八知てるゝ八難波の枕詞なるゝ、考ゝのゝろ八改ゝいゝ刻ゝ用と
稱ゝうゝて、上ゝ難波海ゝいつゝ、知てるゝ宮ゝ後ゝ下ゝ考ゝる
ゝ、所ゝ八ゝ紀ゞ知ゝく朱ゝるゝ

海原乃由多氣伎見都ゝ安之我知流奈爾波爾等之波倍
努倍久於毛保由

うなゞらのゆゝけさみつゝあしゞちるなとゝ八へぬゞくおゝもゆ

あゞをハ枕詞のこゝろ、式はのさまをいつまあゝぢ、考云仁徳源くは
みゝんつもあゝのこゝろにとゝのへぬゞこと

右二月十三日兵部少輔大伴宿禰家持

奈爾波都爾美布禰於呂須恵夜蘇加奴伎伊麻波許伎奴
等伊毋爾都氣許曽

なにはづにみふねおろすえやそのぬきいまハこぎぬといもにつげこそ

おろすえハ下ー居也、やそぬきハ巻十二やそうかけくよみくハ
十檝貫、多くの楫を立るといふ、こぎあるくハ漕出去と、まことん

伊伎年理爾多多年佐和伎爾伊敝能伊毛何奈流敝伎已
等乎伊波須伎奴可毋

ささなりにたんさわぎにいつのいもがあるべきことをいさぎさぬも
ささなりハささもりに、元廣本伊毛を伊年ともかゝうべし、さゝかり

をささ年ぢとよめるゝハ、毛を年とよみこゝ不の用ちるべし、なるべき
ゝゝハ、産業ますべきるゝ、考五家よりうくなりをこまさにゝ
ゝるゝもあふもゝ、立のゝそぎみ当ゆるまでのなるとゝひのゝ
をし、妹よりおのぶして求めるといふ

右二首茨城郡若舎人部廣足　和名抄常陸国茨城、年波良岐　元廣

年廣と度ヨ他

於之呂流夜奈爾波能津與利布奈與曽曽比阿例波許藝奴
等伊毋爾都岐許曽

おしてるやなにはのつよりふなよそひあれハこぎぬといもにつぎこそ

こぎぬゝ漕ぬゝつぎこそハ告よゝゝ津の下與元廣本由ゝゝり

比多知散思由可年加里毋我阿我古比年志留志豆都祁
只伊毋爾志良世年

波下豆ハ屋ノ誤

ひたちさゝゆのんかわものあゞこひをとるゝてつけていとに立てせん
ちるゝてつけて八重ちるゝて時けてゝ者十五天花や屋を仕みゆるゝ
ゞゝあらのゝあらことつげやらむ
右二首信太郡物部道足　和名抄常陸国信太志多
阿我毋豆能和須例毋之太波都久波尼乎布利佐氣美都
都伊毋波之奴波豆
あゞのかてのわすれもちゞハつくいねをかりさけをていとハ立ぬだね
者面のちれもしてあらゞゝ又者十四あけぬ思太久流をかみも武須
ゝ皆時とゝ立ゝゝゆるゝ大まいつ番ゝ十四の者ふいひさ武
ゝハ流波ゝ狂来みゝく之の形ゝ方をてハの方ゝて立ゞゝ
るゞゝ豆一本屋ゝ仕るゝをゝ
右一首茨城郡占部小龍

久自我波波佐氣久阿利麻豆志富夫禰爾麻可知之自奴
伎和波可敝里許牟
くゞのゝさけくあゝまて立ほゞねゝまゝゞぬさわハの方ゝん
奥仲ゝくゞゝハ久慈郡ゝ上毋ゝいつゝゝれゝ久慈ゝある毋をいゝ
で久慈ゞ毋ゝハりゞゝさゝ郡りゝる久慈川者みゝく者七白階ハさゝく
ありまてゝとゝある郡ゝるゞゝハ平清郡ゝハくゞ川ゝ載ゝせゝ
さけくハ幸くゝ立ゝ舟ハ海を渡る舟ゝれゞかくいてゝかみゝよみゝ
右一首久慈郡丸子部佐壮　和名抄常陸国久慈
都久波禰乃佐由流能波奈能由等許爾毋可奈之家伊毋
曽比留毛可奈之祁
つくゝねのゝさゆるのゝはなのゝよゝこゝもゝかなゝけいゝゝひるもかなゝけ
さゆるハさ石合ゝゆゞこハ表者ゝ一二のゝハさゆるの花のゝく者らるゝ時

といまえ、ろけハかちきるく、ぞる河

阿良例布理可志麻能可美乎伊能利都都須米良美久佐

爾和例波伎爾之乎

あられふりかしまのかミをいのりてもあらみくさにされいきふしを

あれ十ろ枕ハ神名帳常陸国鹿島郡鹿島神宮、ちかろみくさい

皇御軍之、来ましをいてるハ、神ゐ祈てまうつると、まろく防人仕ま

つらざるをやといふをきるべし

右二首那賀郡上丁大舎人部千文　和名抄常陸国那珂、古ハ

文を丈ゐ花、元暦本ゐ子久ゐ作ら

多知波奈乃之多布久可是乃可具波志伎都入波能夜麻

乎古比須安良米可毛

たちばなのしたふくかぜのかぐはしきつくハのやまをこひずあらめかも

初二句たぐかぐはしきの序のこゝ、さくかぐはしきふるえて、さ十

ハかぐはしき夫、さを十九かぐはしさ訳のはを言をよ、ありてまるるとく防人

を高るんをふくめて

右一首助丁占部廣方　元暦本廣オゐ作ら

阿志加良能美佐可多麻波理可閉理美須阿例波久江由

あしがらのみさかたまはりかへりみすあれハくえゆ

久阿良志乎毋多志夜波婆可流不破乃世伎久江豆和波

くあらしをもたしやはばかるふはのせきくえてまい

由久年麻能都米都久志能佐伎爾知麻利為豆阿例波伊

ゆくむまのつめつくしのさきにちまりゐてあれハい

波波年毋呂毋呂波佐祁久等寺麻乎須可閉利久麻豆爾

ハハむもろくはさけくとまをすかへりくまでに

たまりうハ宣ちたハ法くりつるうて、たそとほうちぐのたのうふ
甲ぐくまりうハ廻りくゆ下にうそこの多婆兵婆しまるも思くハくしいう、
れ稀ゑ、くえハ越え、あうとハ荒男え、多志夜の志ハ志のうあう
ようはうくるあくたちやちぐうるなん、まも志ハ伝れうくあん
ゆるあう、又東法ようをたしといつるうやて夜のうんひうぐて、法ちん
の考べて、年麻の年ハ字の法ちされどうれ、東法る年麻しいつる紙る
のつめハ桃須、ちまりうあくハ留居面へ、半立うちぐうのへうおきみて神豆
麻利うしハきいまちうこぐぐつまりうゆで、ちうく、称徳紀宣命ハ天下無
人民諸乎慰賜うこ、仲足石のある都止米毛呂うこ、さりくハ幸うこ、
多のうこハ、ぐしも峰き足柄のう坂を思うく、おつてうこうえで、男
むんを起しうく約ハ、不破ハ古、三関の一つうく志敷れハ荒男も
立悍て通うぐしいで、れうハ命と受て約けハ、やちく越約で、

文ヲ父ニ誤ル二儀ヲ改

今よりハ統柴の法ハ留り居くく、れ物るるぐく、故ての父母妻ハ紀按も
ろもろ幸くと申しくくれハいちんといふるぐ、此ちぐく汨のでさ
のいでにゆるハ東人すくでぐさの拙さん、それどまりう健男の
出ハあうれうカ

右一首倭文部可良麻呂

二月十四日常陸國部領防人使大目正七位上息長真人國島進歌數十七首、但拙劣歌者不取載之　後紀宣命。

八年正六位上息長丹生真人国島ハ後立位下を授うこ、十七そのう
内十ぐを載うカ、元慶ハ十七そをサ七首うる

祁布興利波可敝里見奈久豆意富伎美乃之許乃美多豆
等伊逕多都和例波
けようハかつみなくておほきみのこのみていでうつれた

ちこのうらてハ契沖云ちつてハちくちかくこゝろえて、ちこのおきなちかぐらの
詞にて、醜のみたてとハ、つたなき身を卑下していへるなるべし、ふるて
ハ御楯之、防人ハ宮ち天皇の御楯なるべし、崇峻紀捕鳥部萬曰、
萬為天皇楯云々、毛詩赳々武夫公侯干城

右一首火長今奉部與曾布（イマツリベノヨソフ）

令義解云、凡役丁匠皆十人外給一人充火頭、謂火頭者厮丁也、執炊爨之事、故一曰火頭、即給功直与見役者同也、又云厮猶使也、　左右衛門式云凡検校左京非違者、佐一人尉一人志一人府生一人火長九人云々

阿米都知乃可美乎伊乃里弖佐都夜奴久之乃麻
乎佐之弖伊久和例波

あめつちのかみをいのりてさつやぬきつくしのしまをさしていくわれハ

さつやハ幸箭也、さつやぬきハ巻三、笠郎に金村按の時滝津山にてよめる
ものゝふの大夫の弓末ふりおこし射つる矢を後みん人ハかたりつぐがねとよめる、

これハ旅に出立はあるハ防人の国を立時さまさる方に向く弊を祈て矢を
抜つゞけしにや、ちからぬきハ射出のなさてちぐしも箭ハいづれさ宝志ハ
さつやぬきハ靫胡簶なるべく矢を貫入れてさをとりすてるべしといへり、允恭紀
あり、古事記生筑紫島亦身一而面有四云々、此筑紫島ハ九国となる
出る、ちを立つくしのくにとよめるハその筑を筑後といふて異なれ、元暦本　伊
久と由久に作

右一首火長大田部荒耳（オホタベノアラミミ）

麻都能氣乃奈美多流美禮婆伊波妣等乃和例乎美於久
流等多々理之母已呂

まつのけのなみたるみれバいはびとのわれをみおくるごとたちもしところ

まつのけハ松木之、いはびとハ家人之下ふてもいはろふとよめるハ家（イヘ）等（ラ）をいはろふハ之く
たちもころハ立くるてめくといふこと、神代紀若をもころと訓之

送るとてとゝいてゞきを男くゝ

右一首火長物部真島

多妣由伎爾由久等之良受豆阿毋志志爾己等麻乎佐受

豆伊麻叙久夜之氣

たびゆきふゆくとたつらずてあゝたてにてまをさゝていものぞくやけ

あゝハおもゝく母之ゝたてハちゝ、ゝりあるをゝくゝるを志ゝゝ語りあるゝ

ゝ乃ゝ意毛知ゝ我多采とゝて言申さゝてゝ悔ゝさゝ之廣乎乎

を宇之

右一首寒川郡上丁川上臣老　和名抄下野国寒川佐無加波

阿毋刀自毋多麻爾毋賀毋夜伊多太伎豆美都良乃奈可

爾阿敝麻可麻久毋

あもとゞもゝまおもゞもやゝゝゞさてゝとつらのなのてあゝまゝまくゝも

あもハおもに同ゞくあゝとゞハ毋刀自ゝみづらハ和名抄云四聲字苑云

髮美豆良、屈髮也、髮とゝびまゝるゝとゝふ、古事記又神代紀の天照大

御神の男の御形ゝ成ゝ之ゝ、あゝまゝまくゝハ合せ寝ゝ之ゝ

集中橘を詠ゝあゝぬきゝとあるゝあゝ同じ、考三いちゞきゝゝ

ゝるむハ二つなゝゝゝとあり、代ゝとゝる又毋ハ祖母がゝやゝの祖孫ハ祖

ゝゝゝゞゝゝゝ

わたれせをとハ吉れせをと延之、東方の語例ゝ

右一首都賀郡上丁中臣部足國　和名抄下野国都賀

之良奈美乃與曾流波麻倍爾和可例奈波伊乃毛須倍奈

美夜多姚蘇豆布流

さらなみのよそるはまべにわかれなばいつもいつしかそでふる

よそるハよりもるゝ、下地よりあかるゝ、次の二そ波はより毎出もるゝ

よるゝと詠ハ一二の句ハ白砂弱波の浦を縁めりゝ、名れたふ波とり

ふくゝも紀ゝしきく別ちて八神ふるゝもかひなれハ袖をぞほすてゝ

添度神振と之

右一首足利郡上丁大舍人部禰麻呂　和名抄下野国足利阿志加ゝ

奈爾波乃乎已岐涇豆美例婆可美佐夫流伊古麻多可禰

爾久毛曾多奈姚久

久ヲ見二誤

なふしをこゝでゝみれハかゝりさぶるいとまたうねみくもでたかのびく

波波の海門ゝ古ゝの遠きさゝゝるゝ京の方さゝゝるゝ陶を約と思ゝ

多ゝ、東くゝ、ゝかゝる高ゝ多ゝ

右一首梁田郡上丁大田部三成　和名抄下野国梁田庭奈多

久爾具爾乃佐伎毛利都度比布奈能里豆和可流乎美禮

婆伊乃毋須弊奈之

くにぐゝのさきもりつどひふるのうてわかるをうれハいとゝもとゝ

今ハ久を具ゝ久ゝ元ゝ本ゝ久ゝ久ゝ改ゝ此下ゝ例ゝ、ゝ、ゝ、ゝ

八波波の津ゝ集ゝ波ゝ波ゝ波ゝ船ゝ地ゝ文ゝ

おもゝいつるなゝゝ

右一首河内郡上丁神麻續部島麻呂　和名抄下野国河内

布多富我美阿志氣比等奈里阿多由麻比和我須流等伎

爾佐伎毋里爾佐酒
ふくほがみあけひとなりあくゆましいわがいるときにさかりにさす
翁の役ふくなかがくハ巻十六伝人を傍ちよ、ちく山のこのてがいハの面面
ふくよある此面ゑ用ゆ、かくハ神人、あくゆましい鬼ふ鼓ちるべし、神ふ鼓
を棒て祈つれども、を祈二面ゑ神ふく、吾幣をバよく受て、さて
吾を防人ふさ世つるふ悪ふくよめるちるべし、ちゑ人ちるバ鼓と
受べうぬをとふをもく、あしき人とハいつるちるんとるされど猛ち
なるべで、鼓をあくゆましい、ふるべうで、宮長云、ふくほがみハ両ふ腰ふほ
かくといふ、股上のことふ、かゑ両といつて、百をもほと云、五百ちるのめしあた
ゆましいハ疫病ふ和名抄疫阿太波良ふ、毛ふくて初句ハ三の句の上へうつ
てんはべて、ふくほがみあくやましいをとるすふ、防人ふさとるすふ、悪き人ふう
とふ、ちるをくふ此役をさしまれる人をはくそいつていつはれるべし、

頂元屋ちる須ふ化
右一首那須郡上丁大伴部廣成　和名抄下野国那須
都乃久爾乃宇美能奈伎佐爾布奈餘曽比多志涅毛等伎
爾阿毋我米毋我毋
つのくにのうみのなぎさにふなよそひたしねもとき
多志の志ハ知の誤ちるべし、たちでときるハ立出ん也おくあがめしも
ハ毋ちるべ、ねがもふ、嬬ハ目をほりといふ、妻をあひそまくうりちる
ふくゑと同じ
右一首鹽屋郡上丁丈部足人　和名抄下野国鹽屋之保乃夜
二月十四日下野國防人部領使正六位上田口朝臣大
戸進歌数十八首但拙劣歌者不取載之　大戸ハ後紀宝字
四年正月正六位上より従五位下を授しより、かぐやまくて、宝亀八年正月従

五位上ゝ名、十八、その内十一、そをのせゝ
阿加等伎乃加波多例等枳爾之麻加枳乎己枳爾之布禰
乃他都枳之良受毋
あゝとゝこのかゝゝ花どゝこに土まかざをこぎてゝゝねのたづさゝゝゝ
晴ゝ彼ゝ誰ゝとゝ、暮ゝ彼ゝ誰ゝ彼ゝゝ、俗ゝ同ゝ、畠加枳ゝ島
陰ゝたづさゝゝゝゝゝ伝ゝゝゝゝゝ

真玉ゞ家ゝ言ゝ言ゝの物ゝゝゝ

けらをかくといつるゝ、年十五我拙ハ久しくあるゝ叶あゞくる嫁ごこれのあゝ
づくれば
右一首占部出麻呂
志保不尼乃弊古祖志良奈美爾波志久毋於不世他麻保
加於毋波弊奈久爾
志ほゞねのへこそ志らなみかけくも母世こまこのおもひなくに
志らぶねハよる出へこそハ舳越まくに流の舟の舳と越もこに志くくもハ俄ゆもよる
こゝしくハ解へ母世たまゝらハ作世給ふのふく、防人まされるをいふ、流
の舟の舳を越もあく、俗ふ防人ふさそのうゝ歌くへ、作せハ他ゝ為屋
ふハおもせ、自ら屋ふハ母のかゝるをこに於不世と世るハいのゝ、ちれゞ、
通し、ゝるなゝ、俗ゝを他麻保ゝとるハ東語なるゝ
右一首印波郡丈部直大歳　和名抄下総国印幡郡丈部直大歳

今いんぢとこまれど志らハあゝ、いぱとゝいふぱとゝとるゝ、しなゝん
牟浪他麻乃久留爾久枳作之加多采等之以毋加去去里
波阿用久奈采加毋
むらゝまのくるにくきさゝ、かくめとし、いもゝこゝ里ハあよくなめのも
ぬぎゝまを来ゝ、むらゝまゝいるゝ、くるふくさゝ、ハ戸の樞に鎖をさ
しかこめるゝ、巻十六歌ゝ、ゝ、槌ゝ鎖刺をとめてゝとよあり、その樞と
黙と言ゝ、ハぬもゝまの枕詞を結ゝ、又ゝ、ゝ、ハ浪ハ波の語ゝ、
らゝあれ、ゝ、ハ、むぎゝまゝ、ゝ、と牡ハ妻ゝ、ゝ、ぼ、ゝ、初二句ハ
たゞかゝあゝいん序ゝ、かゝあゝ、ハかゝあゝ、ゝ、ハ、ゝ、あゝ、なめ
ゝ、ハ危ゝ、ハあゝ、ゝ、ハ、ゝ、ハ、ゝ、ハ

久爾具爾乃夜之呂乃加美爾奴佐麻都理阿加古比須奈
年伊毋賀加奈志作
くらぐらのやしろのかこにぬさまつり あがこひもちん いそのかすさ
国くの社の神ハ諸人が歴年国くの幣を取り、室屋々々あがこひハ贖乞之、あが
ふ命をぞと乞願之、こひとこひのそのこひ之、もちん ハもらん之、れて来ぬる之
らんをもんといふ例多し、始のあがこひもちんとは之、あがこひを吾
乞のすとなる ひごと之
右一首結城郡忍海部五百麻呂 和名抄下総国結城郡 由不岐
阿米都之乃以都例乃可美乎以乃良波加有都久之波波
爾麻多已等乃波年
あめつしのいづれのかをいのらばかつくしはふまことともむ
都之ハ地之也と知のあ之る例多し、都、そとなるしがく語れる武蔵ハ阿米

都之ともまた語れるなるべし、又土をつし、こちもてをどりあ
て、立てをたしてを、毋下ふあれば方言なく出るる、うつくし毋ハいつ
くしき男子毋と云ふ
右一首埴生郡大伴部麻與佐 和名抄下総国埴生郡 波年と云、布
糸を意伎まて年と云ふ
於保伎美能美許等爾作例波知波波乎以波比幣等於
枳豆麻為豆枳麻之乎
おほきみのみことにされば ちはをいはひへとおきてまつるでこそ
みとふされでハ之阿の約作也て、ことみあれば之、しハ約婚もづく中
世のうふ伊ふきう久、伊ふぎう久る也いつるふハ伊ふ之多之、伊
ふぞる久る之の二つを、之伊の約ちるハ伊の之清べきく、いそひべとおき
てハ、齋庭ハ床上ゑ也て、神ゑ奉る酒を醸もれば、敬ふ之のゆゑに

枳下麻ハ爾誤

犬ヲ大ニ誤

望まして父母をいとしみのぬくたはりて、なるる事てとりて、根麻之の
麻を一本爾み佐るとよりて、まあてきみ、と、参出来ふ、てとて、
辛八与のこと
右一首結城郡雀部廣島
於保伎美能美己等加之古美由美乃美仁佐尼加和多良
年奈賀氣己乃用乎
おほきみのみことかしこみゆみのうにさねらわたらんなげけこのよを
由美八美へさ八爪後、寢ておれと、なげけ八きき、なてのまを直まん
るよ八なく、美のしあくく、きき八いて、年月を渡らんのこと
右一首相馬郡大伴部子羊　和名抄下総国相馬郡　万
二月十六日下總國防人部領使少目從七位下縣犬養
宿禰淨人進歌數二十二首但拙劣歌者不取載之

爾ハ爾ノ誤

サニそのらたつ十そを載しり
獨惜龍田山櫻花歌一首
多都多夜麻見都都古要許之佐久良波奈知利加須疑奈
年和我可敝流刀禰
たつたやまみつつこえこせさくらばなちりすぎなんわがかへるとに
刀祢の祢元廣本爾とあるをよりて、刀禰八時禰のことまくの例なり
獨見江水浮漂糞怨恨貝玉不依作歌一首　江水八新潟江之
保理江欲利安佐之保美知爾與流許都美可比爾安里世
婆都刀爾勢麻之乎
ほりえより、あさしほちてよるつみかひはあり、せばつとに、せまし
こづ、八岑まくづ、既る出、むのよりきるむらうてまり
在舘門見江南美女作歌一首　彼八防人の雜歌ゆ逗留のる

の波ちるぶし江南ハさあらうをよるぶし

見和多世婆牟加都乎能倍乃波奈爾保比豆里氐多豆流
婆波之伎多我都麻

こわづくせびむのつまをのがるふうひてたてるハたゝさたがつま

二二のゐハ美女のゝ〳〵をもきハ髪らゝとよ、元房本流の下婆を

波之化

右三首二月十七日兵部少輔大伴家持作之

為防人情陳思作歌一首 并短歌

大王乃美己等可之古美都麻和可禮可奈之久波安禮特
おほきみのゝことかしこみつまわかれかなしくはあれど
丈夫情布里於許之等里與曽比門出乎須禮婆曽多良知補
ますらをのゝこゝろふりおこしとりよそひかどでをすれば たらちね

元二保下 保ナシ麻 下波ナシ

乃波波可伎奈渥泥若草乃都麻波等里都吉平久和禮波
のはゝかきなでわかくさのつまハとりつきたひらくわれハ
伊波波牟好去而早還来等麻蘇堅毛知奈美太乎能其比
いはゝむまさきくてはやかへらとまそかもちなみたをのごひ
牟世比都都言語須禮婆群鳥乃伊渥多知加豆爾等騰已
むせびつゝことすれハむらとりのいてたちかつにとゝこ
保里可弊里美之都々伊也等保爾國乎伎波奈例伊夜多
ほりかへりみつゝいやとほにくにをきハなれいやた
可爾山乎故要須疑安之我知流難波爾伎為豆由布之保
かゝやまをこえすぎあしがちるなゝハふきあくゆふしほ
爾舟乎宇氣須恵安佐奈藝爾倍牟氣許我牟等佐毛良布
に舟をうけすゑあさなぎにへむけこがむとさもらふ

等和我乎流等伎爾春霞之麻未爾多知豆多頭我禰乃悲
と わがをるとこそにはるがすみ まみるたもとたづのねのつゝく
鳴婆波呂波呂爾伊弊乎於毛比涅於比曾簡乃曾興等奈
なのけハはろ〳〵にいへをおもひでゝ れひそやのそよゝな
流麻涅奈氣吉都流香毋
るまくなげきつるこのも

うゝよそひハ旅裝をいふ、すゝかき宗涅泥、元房本泥の字をよとよむ、
れハいさんハ所人のまらうとをいふなり、安書ハ以下也高の文、久ぐ〳〵ふり洋等騰
をもてまさきく例例之、言後ハ此下也高の文、久ぐ〳〵ふり洋等騰
比勢年等といふるゆく、こゝにひとれハと例ゝ、れ〳〵多の枕詞、いや遠
の国を来たるれらし、考二出高の孫遠ハ里さうり来ぬ、益言るよりこゝ
来ぬるを、ときみてハ来居所ゝ、彩をうけたる意ハよる舟をおろすを意と

しよるをよへおけハよるつくるなるへむのる舟とよあり、さそらよハ候ふ、
日和を給何ゝ、紀候風とも、今本之家采ゝ、ハ非之、采ハ未の誤也、
当まみハ島方のさゝ、俗方を鄙筥といふ国〳〵、又ハ未の誤ゝ、土ゝ
さろぐ〳〵ハ遠ゝ、おもひそやハ頂征箭之、和名抄征箭曾夜
ゝそよゝゝハ考十一枕ゝそよれるなびきつるうもとよるぬく原さる
箭の落るをいふ注歌くをいふ、さくゝそやゝりをうけくそよゝいふ

反歌

宇奈波良爾霞多奈妣伎多頭我禰乃可奈之伎與比波久
爾弊之於毛保由
うなばらにかすみたなびきたづのねのかなしきよひハくるべしおもほゆ

ゝふゝハ國方之

伊弊於毛保等伊乎禰受乎禮婆多頭我奈久安之弊毛美

要受波流乃可須美爾
いへおもふといきねぞをれば たづのなくあしべをさしてはるのかすみ
こづたふくいなばの山の峰の松あきかぜふくらむ海のまくずはら
方はるかにくもはなれて月ぞすみのぼる
右十九日兵部少輔大伴宿禰家持作之
可良已呂茂須曾爾等里都伎奈苦古良乎意伎豆曽伎怒
也意母奈之爾志豆
からころもすそにとりつきなくこらをおきてぞきぬやおもなしにして
置てくるそ思ふらむ おもふ母之こゝ大和うの母とはあれども
みすてゝをてくるこらを歌くゝ
右一首國造少縣郡他田舍人大島 元暦本少を小る能、和名抄信濃国小縣郡加多

帳ヲ張二誤
怒ヲ恕二誤

知波夜布留賀美乃美佐賀爾怒佐麻都里伊波員伊能知
波意毛知知我多米
ちはやふるかみのみさかにぬさまつりいのちはおもちちがため
元九之栖るくかゝるやの神のこゝとしよるくゝ、そでくゝ論しくゝ佐さ山坂をハ、
かゝるくゝ神のこゝとしつるそ、こゝ神のこゝとしつるハ波蘇ゝるゝ
右一首主帳埴科郡神人部子忍男 和名抄信濃国埴科 元暦本忍を思る能 俊本志
意保伎美能美己等可之古美阿乎久年乃多奈妣久夜麻
乎古江豆伎怒加年
おほきみのことかしこみあをくもの たなびくやまをこえてきぬかも
あをくもハ青雲、きぬかもハ来ぬかも、東語ちゝん、多奈 元暦本 等能
をたなびくとて、とのくもゝいつるめくとのひくゝて、ゝ、ゝ本等奈

とせ〜八代の御ゝ八中〜よはくのさうらうやとおびゆ、古江豆の江之屋布
與とを、布陸ることよてといつるをうん、怒をとを怒る信れ豆
右一首少長谷部笠麻呂　之屋布サをとふ九
二月二十二日信濃國防人部領使上道得病不來進歌
數十二首但拙劣歌者不取載之　十二そのうち太こそを載さ
るゝ、部領使の姓名をさハ多いよてさるあ様しく生られやるしこの又ハ
脱くるこの
奈爾波治乎由伎豆久麻豆等和藝毛古賀都氣之非毛我
乎多延爾氣流可毋
なにハちをゆきてくまでとわきもこがつけしひもをたえふけるこのも
紀て由うまるまてこゝひもゝとハ紐之緒ゝ
右一首助丁上毛野牛甘　猪甘馬甘ちゝ古多記書紀あるこゝろ

和我伊毋古我志濃比爾西餘等都氣之志比毛伊乃爾奈流
等毋和波等可自等余
わがいもこがしぬびるせよとつけしひもゝとよ
とあるびハ慕ゝこてハ上れがきみ和といるをめし、多こかるまくハ毛十一あや
むろをなるまてれ、ちをしまんといる回し、わきハ我者ゝ之屋布
古を等るゝいもらとをこ紐るゝ
右一首朝倉益人
和我伊波呂爾由加毛比等毋我久佐麻久良多妣波久流
之等都氣夜良麻久毋
わがいそろふゆのしひとつこのくさまくらたびいくるとつけやらまくも
いそろハ家等ゝゆのしひとつこのハ我ゝくもかと別ゝ、つけやらまくも
告やらんめをを

右一首大伴部節麻呂

比奈久毋理宇須比乃佐可毋古延志太爾伊毛賀古比之
久和須良延奴可毋

ひなくもりうすひのさかをこえしだにいもがこひしくわすらえぬかも

ひなくもり枕詞 考十四ひのれるうちひの山をでくるうちひ山系紀 歴武蔵上野西遠于碓日坂とうえ和名抄に上野碓氷郡をこえたみくいるハ此国の山の山を越しあづま路 遠しくわすられねバ約をハい

のあんとをふくめり

右一首池田部子磐前 池ハ他の誤子ハ首の誤ら元廣本磐を摯ふ化

二月二十三日上野國防人部領使大目正六位下上毛
野君駿河進歌数十二首但拙劣歌者不取載之 上野と

今本下野ハ誤れり元廣本及目録ともに改十二をの内九ハそと載る

和ノ我ニ 倶

陳防人悲別之情歌一首并短歌

大王乃麻氣乃麻爾麻爾島守爾和我多知久禮婆波蘇
おほきみのまけのまにまにしまもりにわがたちくれば
婆能波波能美許等波美母乃須蘇都美安氣可伎奈涇知
そのはゝのみことハみもすそつみあげかきなで
知能未乃知知能美許等波多久頭怒能之良比氣乃宇倍
ちのみのちゝのみことハたくづぬのしらひげのうへ
由奈美大多利奈氣伎乃多婆久可胡自母乃多太比等里
ゆなみだたりなげきのたばくかこしもの ひとり
之氐安佐乃涇乃可奈之伎乃多比吾子安良多麻乃等之能字奈
して あさとでのかなしきのたひわこ あらたまのとしのをな
我久安比美受波古非之久安流倍之今日太仁母許等騰

がくあひそぢ、こひしくあるべし、けふだみもことば
比勢武等乎之美都都可奈之備伊麻世若草之都麻毋古
ひせむとをしみつかなしびいませ、わのくさのつまもて
騰毋毛乎知已知爾左波爾可久美為春鳥乃已恵乃佐麻
ぐもりをちこちにさはみかくみゐはるとりのこゑのさま
欲比之路多倍乃蘇渥奈伎奴良之多豆佐波里和可禮加
よひしろたへのそでなきぬらしたづさはりわかれか
呂爾等比伎等騰氐之多比之毛能乎天皇乃美許等可之
てふとひさらめをたひしものをおほきみのみことかし
古美多麻保已乃美知爾出立乎可之佐伎伊多年流其等
こみたまほこのみちにいでたちをこのさきいたむるごと
爾與呂頭多比可弊里見之都追波呂波呂爾和可禮之久

ふよろづたびかへりみしてはろばろにわかれしく
禮婆於毛布蘇良夜須久毋安良受古布流蘇良久流之伎
れば、おもふそらやすくもあらずこふるそらくるしき
毛乃乎宇都世美乃與能比等奈禮婆多麻伎波流伊能知
ものをうつせみのよのひとなれば、たまきはるいのち
毋之良爾宇毋ぶりのかーこさみちをさまづるひいこざわ
多利豆安利氐具利和我久流麻泥爾多比良氣久於夜波
たりてありめぐりわがくるまぐにたひらけくおやは
伊麻佐禰都都美奈久都麻波麻多世等須美乃延能安我
いまさねつ、みなくつまはまつせとすみのえのあが
須賣可赤爾奴佐麻都利伊能里麻宇之豆奈爾波都爾船

をめがみよ、ぬさまつり、いのつまらして、なにをづよ、ふね
手宇氣須恵、夜蘇加奴伎、可吉登登能倍豆、安佐婢良伎、和
をうけを、やそのぬさ、かことゝ、のゝそ、あさびらを、
波己藝渥奴等、伊弊爾都氣己曽
ハこぎでぬと、いへにつげこそ

和我を今者我我を語、元啓ありよりく故、美母のをゝ、あげかさゝで
ハ、母の衣裳の裾とつまみあげくるの況、あるハ衣裳を接袋つくりさゝを
をり、たくづぬの拖袋、のくぶくハ、のこまくゝ、ぬくづの拖袋、あさと出のを、
接立袋と云、かゝりさハ、をを、こゝびせんとハ、をのいをんを、かゝり、ひ
伊恵世、いまをハの父を、男子る例ゝ、元啓者、麻世婆とゝ、こハ中こゝをの
しらゝ、さきにかくうゐハ、美く、園居ゝ、拜のさまよひハ、雪をり、皆ハ
伝の名の、今をのをれハかくづけく、書るの法也、むをたをふ、考二

をを、のさまをひめれハ、をを、われ、ぬ、ぬ、ハ別難くをるゝ、そのこと、
をるのをゝさハ、岳の岬ゝ、地名をあるゝ、いををるゝ、伊、義、ハ、なる
ハ、丘のたをみゝるあをゝ、ふ、雪手一をゝをををむかみゝる道ゝ、ふ、ふ、
ありめぐりハ、なゝ、ふ、をく、約、思るをゝ、なやハいまさね、ふ、ふ、文母ゝ、ひ
てゝ、ゝにハ、でめぐくおやといて、伊の名の拝ハ、船、を、をりたをゝ、ゝ、
神功紀、ふ、く、知、ゝ、やゝ、ぬ、ぬ、ハ、ふ、る、やゝ、ぬ、ハ、ふ、ゝ、ハ、て

反歌

伊弊姚等乃伊波倍爾可安良年、多比良氣久、布奈捉波之
奴等、於夜爾麻宇佐禰
いへびとのいをゝふのあらんたひらゝくふなでハをぬと、おやまうさね
いをゝふこのあらんハ齋ハ、ハ、ふやあらんのをゝ

美蘇良由久、久母母都可比等、比等波伊倍等、伊弊頭乃夜

良武多豆伎之良受母

みそらゆくくもつのひとひとハいでゝいへづとやらんたづさはりてもゆく

古てのまへ約束を違ていひなせり

伊弊都乃爾可比曾比里幣流波麻奈美波伊也之久之久

二多可久與須禮騰

いへづとにかひそひてゆくはまなみハいやしきくにたのくよすれど

比里の里之房本に呂の字なし拾古をひろふといふまた俗本

之麻可氣爾和我布補波豆氐都氐氣也良年都可比乎奈美

也古非都都由加年

さまのけをわがふねはてつけやらんつのひをなるやこひつゝゆのむ

為後の船泊を為て、まちこのるようを古今へ告やらんとハ歌へども、

を使しなくしく、只古今を思てのゝ伊んとりつ也

二月二十三日兵部少輔大伴宿禰家持

二民三十三日交換之新書

万解竹上終　五十

010190519371